

京都市地域・多文化交流 ネットワークサロン通信

発行日 2016年9月30日 編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン 第19号

京都人と多文化共生



京都は、世界人気都市ランキングで1位になるほど、世界から注目されている魅力的な街です。ネットワークサロンは京都駅に近いので、道に迷った外国からの観光客を案内することが日常になっています。戦災をほとんど受けなかった京都は、寺社仏閣はもちろんのこと、町家に代表される街並みが残り、「都」としての歴史を街ごと保存しています。自然も豊かで、春には桜、

秋には紅葉と四季折々の美しい風景を楽しむことができます。

NHKBSプレミアムで不定期に放送されている『京都人の密かな愉しみ』という番組があります。老舗和菓子屋の若女将を主人公にした「ドラマ」、京料理を紹介する「京都人 家庭料理実録」、京都の職人や伝統行事の「ドキュメンタリー」から構成されています。

この番組では、京言葉についても説明します。京都人が、「また考えときますわ」と言うと、婉曲な表現で断っているのですが、他所の人は言葉通りに受取ってしまいます。京都人は、きつく言って理解させることを嫌うため、「^{いちげん}一見さんお断り」の文化が生まれたとします。また、「おおきに」は微妙なイントネーションで「ありがとう」にも「大きなお世話」にもなり、この違いを理解できない他所の人に、京都人は心を閉ざし「な～んもいわんとこ」となると説明します。京都人は「イケズ」と言われますが、「イケズ」は、相手の気持ちを思いやり、相手との間合いを上手にとって波風を立てないようにする知恵なのです。

多文化共生は、多様な文化的背景を持つ人々が、互いに尊厳ある人間として認め合い、地域社会で豊かに暮らすことだと思います。説明することは簡単ですが、実現することは生やさしいことではありません。根気強い対話と絶えまない努力の繰り返しです。京都人の知恵が、多文化共生にとって、単なる「イケズ」になるのか、相手の気持ちを真に思いやることになるのかは、多文化共生を望む私たちの働きにかかっています。（前川 修）

韓国若手芸術家との文化交流

日本と朝鮮半島の間には、はるかに長い期間友好関係があったのにもかかわらず、近代の悲しい歴史を経て、国家間の溝は深まるばかりである。その深い溝を埋めるかのように、今回韓国を代表する芸術家たちの絵画展示・パンソリ公演がひらかれ、観覧した人々の心にしばしやすらぎの時間をあたえた。



6月12日（日）故郷の家・京都雲史ホールにて韓国から来日した「パダッソリ」代表チェヨンソク氏、大統領賞受賞ヒョンミ氏によるパンソリ公演がひらかれた。パンソリは太鼓の音に合わせて語る韓国の古くから伝わる伝統芸能で、お二人のすばらしい歌声に聴衆たちは聞き入った。公演終了後の高慶日似顔絵コーナーでは、なごやかな雰囲気の中、参加者たちは楽しい時間をすごした。

ネットワークサロンで、6月13日（月）から7月5日（火）まで、マンガ展「高慶日 日本歴史紀行～風刺画で描く在日コリアンの生活～」が展示された。在日朝鮮人たちの過去、現在、未来が、風刺漫画形式の鋭いタッチで描かれていた。京都東山区「残酷な歴史のシンボル耳塚」、朝鮮人12万6000人の鼻と耳は、歴史になってわたしたちの心の中に葬られているや、「どれほど怖かったか長生海底炭鉱」、海底坑道で水没事故が起き、136名の朝鮮人労働者が犠牲になり遺体をひきあげられることなく、今も暗く冷たい海に眠ったままであるなど、22点のすべての作品が見ごたえがあり、在日朝鮮人の歴史がひと目でわかるように表現されていた。

7月5日（火）には高慶日トークショーも行われた。



7月6日（水）～8月20日（土）には李海光のユーモアひとコマ漫画展「お願い、スイカ！」が開催された。夏の季節に合わせスイカを題材にユーモアたっぷりの作品は観る人の笑いをさそった。

今回、チェヨンソク氏、ヒョンミ氏、高慶日氏、李海光氏の芸術性の高さに驚くとともに、これを機に今後も日韓友好・親善のための公演や展示を企画していただきたいと思う。市民レベルでの文化交流を積みかさね、お互いの良さを認め合い、お互いの文化を学ぶことが、両国民のこころの距離が近づく第一歩になると確信した。

ご協力いただいたみなさまに、心より御礼申し上げます。
（NPO法人丹波マンガ記念館 李順連）



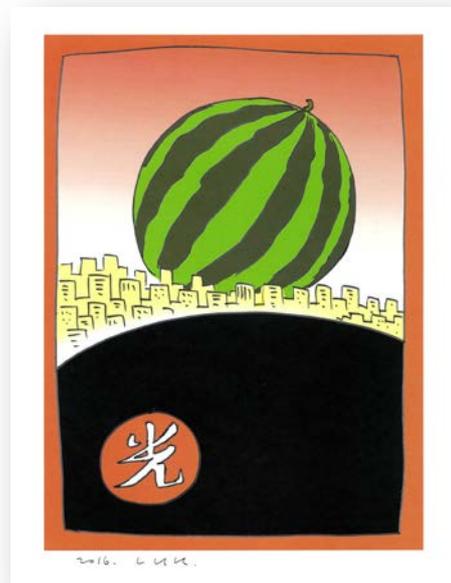
高慶日氏 「長生炭鉱」



高慶日氏「耳塚」



李海光氏「お願い、スイカ!」より



高慶日 (コギョンイル) 氏 プロフィール

1996～1999年ハンギョレ新聞、ハンギョレ21、ニュースピープル等で風刺マンガ家として活動。1996年京都精華大学漫画学部卒業（カトウン漫画）。1998年京都漫画大学院美術研究科卒業（風刺画）。2000～2001年京都精華大学芸術学部専任講師。現在、祥明(サンミョン)大学校漫画専攻副教授、韓国時事漫画協会副会長。最近では漫画のキャラクターを利用した現代美術、風景画と漫画の出会いという主題で、ジャンルの壁を越えた作品で活動中。

李海光 (イヘグアン) 氏 プロフィール

ホソ大学視覚デザイン科、祥明(サンミョン)大学大学院(マンガ映像専攻)卒。日刊スポーツ新人マンガ公募(トゥガリ)で当選しデビューした後、多数の週刊、月刊紙に連載。日本では2010年に、京都市堀川ギャラリーにて個展を開く。現在は、社団法人韓国漫画協会理事、社団法人韓国マンガアニメーション学会員、韓国カトウン協会員、ソウルカトウン大学芸術大学マンガデジタルコンテンツ学部教授。

高慶日氏、李海光氏のご厚意により、展示した作品は、そのままネットワークサロンで保管させていただくことになりました(高慶日氏24点、李海光氏17点)。展示を希望される団体、施設に貸出しすることも可能です。先生方も、多くの方に観ていただくことを望んでおられるので、ぜひ、ご利用ください。

7/22 "東九条を知る学習会 「ウトロ」地区～「住みつづけたい」を叶えた 画期的な取り組みとこれからのまちづくり～"に参加して



私は昔、学生の頃の企画でウトロのフィールドワークに参加したことがあるのですが、あまり関わりを続けられないままで気になっていたので、今回の学習会に参加しました。当時は裁判で住民側の敗訴が続いていた時期で、国連に訴えに行ったりしていた時期だったと思います。

学習会では、「ウトロを守る会」の斎藤さんから、ウトロが飛行場建設の飯場として形成さ

れた歴史や、立ち退き問題の発生や住民側の取り組み、韓国政府と韓日の民間から募金を集めて土地を購入し、公営住宅が建設されることになった経緯などをお聞きしました。韓国のバラエティ番組がウトロに来て1世のおばあちゃんを取材したことで、韓国からたくさんの観光客が訪れるようになったというお話は、つらい歴史の話の中で、ちょっと救われたような気持ちになりました。今は1棟目の公営住宅の建設のため、その地区の住居の取り壊しが進んでいるようで、取り壊される前に見ておきたいと訪問する人も多いそうです。1棟住宅建設予定地の住民の方は、建設が終わるまでは別のところで住んで、建設が終わればまた戻ってくる予定だそうですが、残念ながら家庭の事情で戻ってこれないことが決まっている人もいます。写真家の中山さんの写真をプロジェクターで映しながら説明する時間もあり、もう亡くなってしまった方や、もう無くなってしまった風景などを懐かしそうに語っておられました。

コーディネーターの村木さんは、ウトロと同じように在日コリアンの人たちが多く、「不法占拠」が問題とされた、東九条の「40番地」の住民が引っ越した先の市営住宅の管理と生活支援をしているNPO法人まめもやしで活動しています。ウトロでも公営住宅に引っ越してからのコミュニティをどう維持していくかが課題になるだろうとのことで、一時移転している住民の人たちも一緒に集まれるサロンを、「ウトロを守る会」が中心に開いていて、村木さんもお手伝いされているそうです。

以前からウトロのことに関心を寄せている方が多く参加していたようで、活発に質問や意見が飛び交っていました。(参加者 きむらりえ)



第2回ネットワークサロン卓球バレー大会 6/15 ～エルファ共同作業所 Facebook より～

エルファも参加してきました！

初めて行う卓球バレー！

職員もほとんど初めてのなか、即席メンバーで挑みました(´_`)

会場に向かう前から、お盆と新聞ボールで練習。

すでに白熱していました。笑

九条地域の施設さん全6チームとの闘い。

職員も真剣になって白熱した試合を3回。

終わったころには皆バテバテでした。笑

結果は・・・3位！！

初めて+即席メンバーにしては良い成績(*'▽')

座りながら身体を動かして楽しかった～♪

次回の第3回はエルファがトロフィーをもらう・・・はず？！

* * * *

卓球バレーって・・・卓球なの？バレーなの？という方も多い方と思います。

以下、インターネットからの引用

卓球台を使い、ネットを挟んで、1チーム6人ずつが、いすに座ってピン球を転がし、相手コートへ3打以内で返す、というゲームです。ルールは、6人制バレーボールのルールを元に、考案されています。

* 余談 * *

なんと発祥が京都なんです！！

今では全国で大会もあるほど人気のゲーム。

車いすの方でも、聴覚・視覚、障害の有無に関係なく、若者からお年寄りまで、だれもが楽しめるんです。

学校や施設、または職場のちょっとした遊びでやるのも楽しいですよ♪



多文化社会を生きるⅡ

外国につながる子どものことばとところ

～生きぬく力をはぐくむ学校・家庭・地域の役割～



京都市地域・多文化交流ネットワークサロンでは、2年に渡り、外国につながる子どもたちのことばとところのつながりについて、講演会を開催してきました。

親のことばがけが、子どものこころの育ちに、どのように影響しているのか、という問いに対する答えを、日本語教室担当の先生の経験、精神科の先生の研究から得ることができ、そのお二人のご協力により、講演会が実現しました。外国につながる子どもたちの支援

や教育に携わる方々を始め、教育の勉強をされている学生さんたちにもご参加いただきました。また、タガログ語通訳もしていただき、フィリピン人コミュニティのリーダーたちにも、興味をもっていただくことができました。

最近でこそ、母語で子育てすることの重要性が伝えられるようになってきましたが、日本に来たのだから、子育ても日本語でがんばろう!!という考え、また、それを後押しする考えは根強く残っています。講演内でもご紹介しましたが、京都府国際センターが発行したパンフレット「バイリンガルを育てる」の表紙に、「外国から来たお父さん、お母さん、あなたが話している言語（げんご）は子どもにとって宝です」という文章が書かれています。なぜ母語（思いが伝わることば）で子育てすることが大切なのかを、一人でも多くの方々に理解していただき、外国から来た親御さんたちにこのことばが広がり、子どもたちが、日本社会で幸せに暮らせるようになってほしい、という強い願いを持って、今回、この講演会記録を冊子にさせていただきました。

多文化社会を生きるⅡ

外国につながる子どものことばとところ

～生きぬく力をはぐくむ学校・家庭・地域の役割～

- ◆まえがき 内田晴子（世界人権問題研究センター 専任研究員）
- ◆母語と日本語一心と考える力を育て、なりたい自分になるために—
中山美紀子（京都市立春日丘中学校 日本語教室担当）
- ◆こころを見わたせる心を育てる—メンタライズ (mentalize) のお話—
崔炯仁（いわくら病院精神科医）
- ◆参加者からの質問に答えて
内田晴子・中山美紀子・崔炯仁

※ネットワークサロンにて、無料でお配りしています。郵送の場合、送料のみご負担いただきます。

□ 所在地：〒601-8006 京都市南区東九条東岩本町 31（京都市地域・多文化交流ネットワークセンター内）

□ TEL：075-671-0108 □ FAX：075-691-7471 □ E-Mail：salon_kyoto@ck9.so-net.ne.jp

□ 開館時間：9時～17時 □ WEB サイト：http://k-tabunka.com

□ JR 京都駅・京阪東福寺駅・市営地下鉄九条駅より徒歩 15 分

京都市バス 42・202・207・208 系統 九条河原町より徒歩 10 分／84 系統 河原町八条より徒歩 5 分